

聖書：使徒 10：23b～48

説教題：すべての人の主

日時：2013年11月24日

使徒の働きはイエス・キリストの福音が全世界に向けてどのように宣べ伝えられて行ったかを記している書です。今見ているのは、その異邦人宣教の御心がいよいよ神によって明らかにされようとする場面です。今回は異邦人の百人隊長コルネリオと 12 使徒のリーダー・ペテロの双方に、神の幻が与えられました。コルネリオに対しては御使いが現れ、「ヨッパに人をやってシモンを招きなさい」と告げました。彼はすぐさま、しもべ二人と敬虔な兵士一人を遣わします。一方のペテロには「神がきよめた物を、きよくないと言ってはならない」というメッセージが与えられました。そしてコルネリオから遣わされた使節が到着した時、御霊はペテロに「ためらわずにいっしょに行きなさい」と命じます。「ためらわずに」という言葉は「何の差別もつけずに」ということです。ペテロはこの命令に従って 3 人を中に入れて泊めます。そして明るる日、コルネリオの家に向かって出発したのです。

23 節に「ヨッパの兄弟たちも数人同行した」とありますが、11 章 12 節から、それは 6 人の兄弟たちであったことが分かります。つまりペテロと、コルネリオからの使節の 3 人と、ヨッパの兄弟 6 人の計 10 人がヨッパから旅立った。この彼らが翌日カイザリヤに着くと、コルネリオは親族や親しい友人たちを呼び集めて待っていました。そしてペテロの足もとにひれ伏して拝みます。ペテロは「お立ちなさい。私もひとりの人間です。」と言って、コルネリオにその行動をやめさせます。自分に栄光を帰さないペテロ、誉まればすべて主にのみ！というペテロの姿勢が現れています。そして彼は話し始めます。本来、ユダヤ人が外国人の仲間に入ったり、訪問したりするのは律法にかなわないことであるが、神が私に幻の中で「どんな人のことでもきよくないとか、汚れていると言ってはならない」と示してくださった、と。先の幻における神の言葉は、直接的には動物を指していましたが、ペテロはその後の導きの中で、これは異邦人に適用すべきものであると理解したことが分かります。そして彼はコルネリオに尋ねます。「あなたがたはいったいどういうわけで、私をお招きになったのですか。」と。

コルネリオは、自分が受けた導きについて 30 節から説明します。これは先の幻をその通りに述べたものです。彼はその幻を通して、ペテロを招いて主の御言葉を聞くように命じられたと告げます。それで私たちは主があなたにお語りになったことを伺おうとして、みなで神の前に出ているのですと答えたのです。

その時、ペテロは言います。「私はこれではつきりわかりました。」彼が分かったことは、神はかたよったことをなさらず、どの国の人であっても、神を恐れかしこみ、正義を行なう人なら、神に受け入れられるということです。ペテロは少しずつこのことに目が開かれて来ました。幻を受けて後、異邦人と会う際に、御霊によって「何の差別もつけないように」と言われました。この二つのことを結びつけて考えるなら、神は今や異邦人をきよいものとしているということになります。そう受け止めながらコルネリオを訪ねると、彼にも神から導きがあり、ペテロの話を書くようにとの御告げを受けたとのこと。ペテロはここにおいて、神が今や異邦人を

受け入れておられることをこのような仕方でも明らかにしようとしておられる、ということが分かった。

そして言います。36 節：「神はイエス・キリストによって、平和を宣べ伝え、イスラエルの子孫にみことばをお送りになりました。このイエス・キリストはすべての人の主です。」彼はここで三つのことを述べています。一つは神はイエス・キリストによって平和のメッセージを与えてくださったということ。平和とは何と言ってもまず神との平和、神との和解を意味します。そしてそこから流れて来るすべての祝福を意味します、第二にそのメッセージはまずイスラエルの子孫に与えられた。最初の受け取り手はイスラエルであった。そして第三に、その祝福は今や異邦人にも差し向けられているということです。このイエス・キリストはすべての人の主であるということです。

ペテロはこう述べてから、彼ら異邦人に対する説教を行いません。彼が述べているのは、イエス・キリストの地上の生涯、十字架の死、復活、将来のさばきについてです。まず彼はイエス様の地上の生涯とそのわざについて語ります。神はこの方に聖霊と力を注がれ、共におられた。それゆえ、この方は行くところで良いわざをなし、悪魔に制せられているすべての者をいやした。ところが第二に人々はこの方を木にかけて殺した。「木にかけて殺した」とは、呪いの木に付けたということです。この方は呪われた者としての死をその身に受けられた。第三にしかし神は、このイエスを三日目によみがえらせることによって、この方が正しいことを示された。つまり、この方の十字架の死は、ご自分が何か悪を行なったためのものではなかった。そして第四に、このイエスこそがやがて来たりたもうさばき主である。そう述べてペテロは 43 節で、このイエスにおいて旧約からずっと預言されて来た罪の赦しが提供されていると述べます。このイエスこそ、預言者たちが指し示して来たメシヤであるということです。この方の十字架の死は、ご自分のための死ではなく、身代わりとして身代金を支払う贖いの死であった。その贖いの祝福は、この方を信じるすべての者に与えられる。それはユダヤ人にだけ限定されているのではなく、信じる者は誰でも、この方によって罪の赦しを受けることができるのだとペテロは述べたのです。

そうしてペテロが語り続けている時でした。みことばに耳を傾けていたすべての人に、突然、天からの聖霊の下りが生じます。そしてそのことがはっきり分かる現れがありました。46 節に「彼らが異言を話し、神を賛美するのを聞いたからである。」とあります。それを見てペテロと一緒にヨッパから来 6 人の割礼を受けていたユダヤ人たちはビックリします。これは一体どういう出来事なのでしょう。これは決して単なる特別な奇跡というだけのことではありません。これは一言で言えば異邦人世界におけるペンテコステです。あの使徒の働き 2 章でエルサレムに起こった聖霊の特別な注ぎを VTR で再現するような出来事がここに生じたのです。

私たちが心に留めるべきは、使徒の働き 2 章で見たペンテコステの注ぎは、ユダヤではあの 1 回だけしか起こっていないということです。あれは繰り返し起こるものではなく、独特な一回限りの出来事でした。そしてそれはサマリヤ人の地でも 1 回起きました。サマリヤでも 1 回だけです。そしてこのカイザリヤでも同じことが起きた。これも 1 回限りです。これらは何を意味しているのでしょうか。それはイエス様は 1 章 8 節で「聖霊があなたがたの上に臨まれる

とき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」と言われましたが、まさにそのプログラム通りに、福音の恵みがユダヤ、サマリヤ、そして異邦人へと拡がって行ったことを示します。そしてそのいずれの人々も、全く同じ聖霊の恵みにあずかっていることを目に見える方ではっきり示す意味を持っているのです。

もしペテロがここで「イエス・キリストはすべての人の主です」と語っても、この聖霊の注ぎが起こらなかつたらどうでしょうか。これがなければ、異邦人はユダヤ、サマリヤに比べたら、やはり主から受ける祝福は一段落ちると誤解されてもおかしくなかつたでしょう。主はすべての人を救ってくださるとは言え、異邦人はやはり二級のクリスチャンなのだと言われられたでしょう。しかしエルサレムで起こったあの出来事がサマリヤでも起き、そして今、異邦人の上にも全く同じように起こった。このことが示していることは何か。それは異邦人も、ユダヤ人やサマリヤ人に劣らず、全く等しい主の救いの恵み、聖霊をいただく恵みにあずかっている！ということです。神は差別をつけておられません。同質同等の恵みが、異邦人にも注がれたのです。

ペテロはこれを見て47節でこう言います。「この人たちは、私たちと同じように、聖霊を受けたのですから、いったいだれが、水をさし止めて、この人たちにバプテスマを受けさせないようにすることができましようか。」こうしてそこにいた人々は洗礼を受けます。神の契約の民としての正式な証印をいただいたのです。そしてペテロは彼らをさらに教え導くためにでしょう。数日間、彼らに願われてそこに滞在します。ここにすでにユダヤ人と異邦人の隔ての壁が取り払われ、主にあつて一つとされたユダヤ人・異邦人双方からなる教会の姿が示されています。

私たちはここからどんなメッセージを受け取るべきでしょうか。何と言っても今日の箇所のクライマックスは、天からの圧倒的な聖霊の注ぎでしょう。異邦人である彼らにもこのことが起こりました。これは本当に衝撃的な事件です。エルサレムの教会に起こったことと同じことがここにも起こりました。私たちはこの記事をどのように読むべきでしょうか。昔の時代にはこういうことも起こったのだ、と読めば良いのでしょうか。当時はこういう特別な現れもあつたのか、と理解すれば良いのでしょうか。そのように読んで私たちはここを閉じてしまつてはなりません。先に触れましたように、当時もこのような聖霊の特別な目に見える注ぎが起こつたのはこの1回だけです。これは繰り返し起こつたことではありません。そしてこのことは、以後の異邦人教会はここに示された通りの聖霊の祝福にあずかっているということを示しています。ということは、今日の私たちもこれと全く同じ恵みにあずかっているということの意味します。もし今日の私たちの教会に、このカイザリヤで起きたような聖霊の注ぎが起こつたらどうでしょうか。私たちは相当驚き慌てることでしょう。しかし目には見えませんが、これと同じ聖霊の祝福に今日の私たちも生かされているということはこの出来事は示しています。私たちは果たして自らがこのように天上から主の祝福を豊かに注がれている教会であると考えているでしょうか。このことを感謝し、喜んで、キリストに目を高く上げているでしょうか。神はイエスを信じる者は、今や異邦人でもこのような恵みにあずかっていることをこのように

示されました。私たちは決して二級のクリスチャン、二級の教会ではないのです。カイザリヤの信者たちがそうだったように、私たちも何とエルサレムの教会と全く同じ恵みにあずかっている者たちです。そのことを私たちは今朝、心から感謝したいと思います。私たちはここに記された聖霊を豊かに注がれた教会と別ではないのです。私たち異邦人も、聖霊を通してキリストと結ばれ、聖霊に充滿させられている主の教会なのです。

ペテロは言いました。「どの国の人であっても、神を恐れかしこみ、正義を行なう人なら、神に受け入れられるのです。」「このイエス・キリストはすべての人の主です。」「この方を信じる者はだれでも、その名によって罪の赦しが受けられる」異邦人である私たちも、このイエス・キリストによる豊かな祝福に生きることができます。私たちは神が与えてくださった唯一の主キリストに目を高く上げ、この方に罪の赦しと一切の祝福を求めて歩みたい。キリストは聖霊を通してご自身が勝ち取ったあふれるばかりの恵みを、天から注いでくださいます。私たちは聖霊を通してこの主と結ばれていることを感謝し、益々主を求め、キリストの絶大な恵みから聖霊によって豊かに汲む教会の幸いに歩みたいと思います。